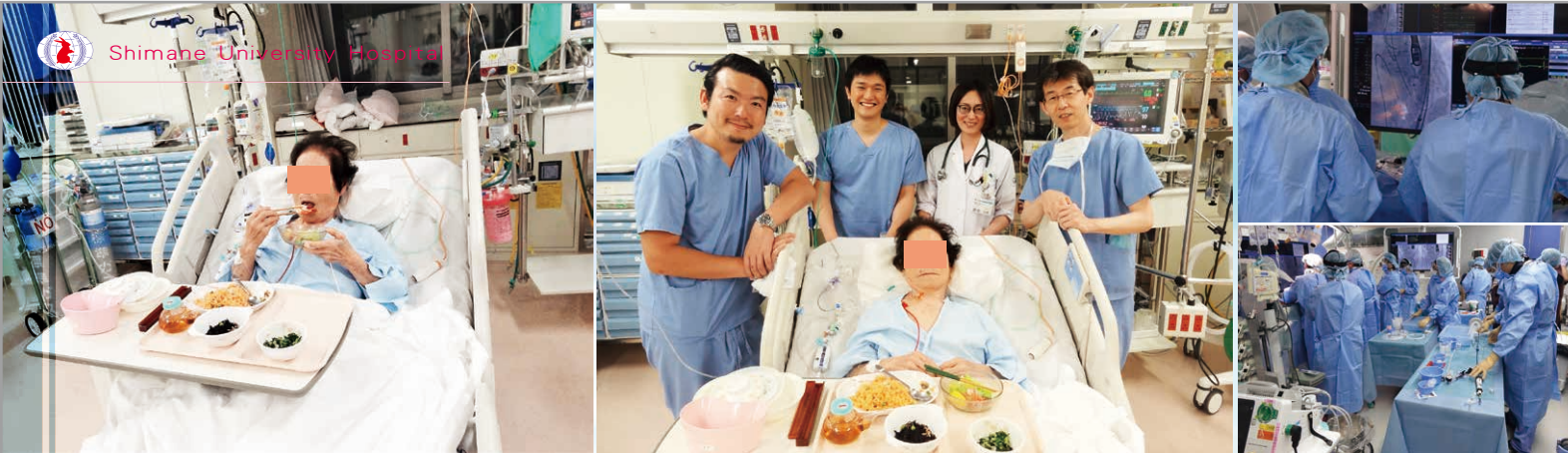




Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2018年
7月
Vol.57

NEWS

TAVI^(タビ:経カテーテル大動脈弁留置術)が順調です!

総合ハートセンター

えんどう あきひろ
遠藤 昭博
たなべ かずあき
田邊 一明

島根県で初となるTAVI(Transcatheter Aortic Valve Implantation)を4月17日に開始して以来、少しずつですが症例を重ね、着実にハートチームとして成長しています。手術手技はもちろんですが、手術前後の管理や退院に向けてのリハビリテーションも徐々にコツをつかみ、入院から退院まで安全な医療を安定して提供できるようになってきています。

TAVIを施行するには多くの診療科、多くの部署の協力が不可欠であり、ハイブリッド室で実際に手術に携わるメンバーだけでも30人近くを要する一大イベントです。月に一度のペースで症例を重ね、4月に1例、5月に1例、6月には1日に2例のTAVIを実施することができ、全例が合併症を生じることなく軽快退院されました。今後も月に1~2回、1日2例のペースでTAVIを行っていく予定です。

TAVIを受けられたのは80歳代半ば以降の高齢者の方々ばかりですが、全員が手術翌日にはベッドサイドに立ち、歩行訓練を開始できる状態まで回復されました。そして6月のTAVIでは午前中の症例は昼過ぎに手術が終了したにも関わらず、我々が2例目の手術を終えてICUに様子を見に行った時には夕食を普通に食べておられました。その姿を見たときには驚きを通り越して一種の感動さえ覚えました。術後のリハビリを進めながら「これで胸が苦しくなることを心配せずに畑仕事を頑張れます。たくさん野菜を作って近所に配るんです」と生き生きと話されるのを聞いていると、TAVIを受けていただいて本当に良かった、とこちらの方が嬉しくなります。

もしも高齢者が「動くと胸がせつ」と訴えられましたら、まず聴診してみてください。そして心雑音が聞こえたら「せつ」と原因は大動脈弁狭窄症かもしれません。スクリーニングはそれで十分ですので、ぜひ大学病院へご紹介いただきますようお願いいたします。

ホットライン TEL070-5672-8109

問合せ先 循環器内科(医局) TEL:0853-20-2206

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

7月15日~8月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名・講師名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
7/15(日) 9:30~11:30	平成30年度島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん相談支援センター	一般	島根大学医学部附属病院
7/25(水) 17:30~18:30	2018年度栄養セミナー 「経腸栄養 1」 講師:島根大学医学部附属病院栄養サポートセンター長 矢野 彰三 准教授	外来中央診療棟2階 クリニカスキルアップ センター	医療 本学	栄養サポートセンター
8/8(水) 17:30~18:30	2018年度栄養セミナー 「経腸栄養 2」 講師:島根大学医学部附属病院栄養サポートセンター長 矢野 彰三 准教授	外来中央診療棟2階 クリニカスキルアップ センター	医療 本学	栄養サポートセンター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

Vol.57
2018
島大病院ニュース

平成30年7月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



CONTENTS

- ・先進医療「血清 TARC 迅速測定法を用いた重症蕁麻疹の早期診断」を申請しました
- ・医師の働き方改革検討 WG を立ち上げました
～勤務状況改善をめざして～

- ・TAVIが順調です!
- ・島根大学医学部における
研修会・セミナー開催情報



先進医療

「血清TARC迅速測定法を用いた重症薬疹の早期診断」を申請しました

皮膚科診療科長 もりた えいしん
森田 栄伸

薬疹は薬剤により生じる皮膚障害で、このうちStevens-Johnson 症候群 (SJS) や中毒性表皮壊死症 (TEN)、薬剤性過敏症症候群 (DIHS) は致死的な重症薬疹です。近年、厚生労働科学特別研究事業の重症薬疹研究班 (研究代表者: 森田栄伸 島根大学皮膚科) によりSJS/TENの診療ガイドラインが作成され、ステロイドパルス療法などのステロイド大量投与を主体とした治療法が第一選択として位置付けられました。一方、DIHSは複雑な病態をとり、診断基準が設定されてはいるものの、その確定診断には2週間以上の観察を要し、発症初期には診断が難しいのです。

奈良県立医科大学の浅田医師らは、DIHS発症初期に血清TARC値 (アトピー性皮膚炎の重症度マーカーとして保険適用済み) が著明に高値となり、他の薬疹病型との鑑別に有用であること (文献1)、また筆者らは、薬疹発症初期の血清TARC値は薬疹の重症度を反映すること (文献2) を明らかにしています。さらに、シスメックス社製の全自動免疫測定装置HISCL®を使用すると測定開始から17分でTARC値が測定可能となることから (図)、2018年6月1日に「血清TARC迅速測定法を用いた重症薬疹の早期診断」が先進医療として認定されました。

当院では全自動免疫測定装置HISCL®を既に保有しており、同先進医療の申請要件を満たすことから申請に踏み切りました。併せて、奈良県立医科大学が主研究施設となる多施設共同臨床研究「血清TARC迅速測定法を用いた重症薬疹の早期診断」に参加し、症例を集積して血清TARC迅速測定法の保険適用を目指します。

図 短時間で血清TARC値が測定可能なシスメックス社製の全自動免疫測定装置HISCL®



文献1
Ogawa K, Asada H, et al.: Identification of thymus and activation-regulated chemokine (TARC/CCL17) as a potential marker for early indication of disease and prediction of disease activity in drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS)/drug rash with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS). J Dermatol Sci. 69 (1):38-43 (2013).
文献2
Komatsu-Fujii T, Chinuki Y, Niihara H, Hayashida K, Ohta M, Okazaki R, Kaneko S, Morita E.: The thymus and activation-regulated chemokine (TARC) level in serum at an early stage of a drug eruption is a prognostic biomarker of severity of systemic inflammation. Allergol Int. 67(1): 90-95 (2018)

医師の働き方改革検討WGを立ち上げました ～勤務状況改善をめざして～

医師の働き方改革検討WG 座長 しいな ひろあき
椎名 浩昭

働く人一人ひとりがより良い将来の展望を持ち得ることを目指した働き方改革が始まっています。長時間労働は、健康の確保だけでなく、仕事と家庭生活との両立を困難にすることなどから大きな問題を抱えています。こうした状況の中、医師は昼夜を問わず患者の対応を求められうる仕事であり、他職種と比較しても長時間労働の実態が明らかであることから厚生労働省において「医師の労働時間短縮に向けた緊急的取組」がまとめられました。

このたび当院においても医師の健康管理や働き方を検討するWGを設置し、医師の労働時間短縮に向けた取組について検討を開始しました。

このWGは、私を座長とし、神田副病院長のほか、当院の医師、研修医、医療スタッフ、事務職員により構成され、5月28日 (月) に第1回目のWGを開催しました。

WGでは、医師の業務負担軽減のため、静脈注射、薬の説明や服薬の指導などの業務を多職種へタスク・シフティング (業務移管) していくことや複数主治医制への移行などタスク・シェアリング (業務の共同化) の推進等について検討を行なうとともに、これにより特定の職種に業務が集中しないよう、多職種チームでの総合的な検討を行ない、多職種連携による勤務環境改善を検討していきます。

医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組

1. 医師の労働時間管理の適正化に向けた取組
2. 36協定等の自己点検
3. 既存の産業保健の仕組みの活用
4. タスク・シフティング (業務の移管) の推進
5. 女性医師等に対する支援
6. 医療機関の状況に応じた医師の労働時間短縮に向けた取組

～厚生労働省が設置している
「医師の働き方改革に関する検討会」より～



島大病院ニュース 2018年7月

ご報告

環境整備ボランティア活動を行いました

医学部会計課施設管理室

当院の環境整備は、外部団体のボランティアの方々によるお世話や、平成29年9月からは、環境整備ボランティアの制度を発足させ、職員・学生による環境整備を実施しています。また、外部委託による環境整備も実施しています。

今回は、6月2日(土)に実施した環境整備ボランティア活動のご報告です。

当日は、10時～11時30分の間、井川病院長はじめ職員総勢39名により、第一臨床研究棟北側からロータリー、第二研究棟南側の草刈、樹木の剪定及び立体駐車場の清掃を行いました。

今回のボランティアは、メールで参加案内をしたところ、39名の参加が得られ、草刈に加え、懸案であった立体駐車場の清掃することができ、患者さんにも気持ちよく利用していただけるようになりました。

今後も、当院の美観を維持する各種ボランティア清掃活動を行ってまいりますので、ご理解・ご協力方よろしくお願いいたします。



ご報告
島大病院ニュース

平成30年7月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年7月

お知らせ

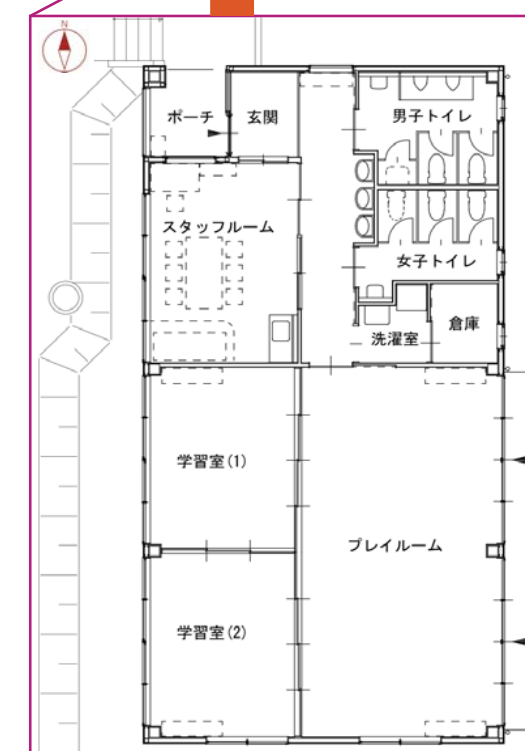
安心して働ける職場を目指して！ ～敷地内学童保育施設が完成間近です～

ワークライフバランス支援室 室長 かんた まりこ
神田 眞理子

職員の強い要望により計画してまいりました出雲キャンパス学童保育施設がこのほど完成し、7月23日(月)開設の運びとなりました。出雲キャンパス敷地内のうさぎ保育所南側に隣接し、平屋建てのアイボリー色に覆われたとても明るい建物です。また、施設内は約50㎡のプレイルームと学習室2室を設け、間仕切りの建具を開放すると、一体的に使うことができる大空間となります。

運用面では、保育日については年末年始の6日間及び祝日を除く月曜～土曜のほか、春夏秋冬休みも預けることができます。また、保育時間は平常時は小学校授業終了時から午後7時まで、土曜日・春夏秋冬休みは午前8時から午後7時まで、そして夕方の延長保育が午後8時まで可能となっています。加えて、校区限定ではありますが小学校への迎えも実施の予定です。

職員の子育てを積極的にサポートし、安心して働ける職場づくりの支援を行うことで、より良い医療サービスの提供を目指していきます。



お知らせ
島大病院ニュース

平成30年7月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年7月

ご報告

ISO14001 (環境マネジメントシステム):2015 の認証登録を取得しました

出雲キャンパス環境管理責任者 いがわ みきお
井川 幹夫

島根大学では、環境に関する国際標準化規格であるISO14001:2004/JISQ/2004規格での認証を、2006年3月に松江キャンパスで取得し、2008年3月に出雲キャンパスを含めた拡大認証を取得しました。2012年以降は出雲キャンパス単独で認証を更新しています。このほど、2018年6月1日付けで新規格への移行が承認され、新たな登録証の交付を受けました。

これは、平成30年5月11日に実施された外部審査機関(一般財団法人日本品質保証機構:JQA)による移行審査により、ISO14001:2004/JISQ14001/2015規格要求事項に適合していると認められたことによるものです。

今後も学長のリーダーシップのもと、環境管理責任者として附属病院を含む出雲キャンパスの環境活動を推進するとともに継続的改善に努め、環境面からの地域貢献をすすめていきます。



島大病院ニュース 2018年7月

ご報告

平成30年度 内科系診療科合同説明会について

内科系診療科医局長 代表 わたなべ のぶひで
内科学講座 内科学第四 渡邊 伸英

5月17日、大学会館一階学生食堂において、平成30年度の内科系診療科合同説明会を開催しました。本会は、内科系診療科医師と医学科5年生6年生や初期臨床研修医との交流を深め、大学病院や島根県内での初期研修者の増加、内科系診療科への入局者増加を目的とし、昨年に続き二度目の開催となりました。

当日は5年生 23名、6年生 11名、初期研修医 5名の他、多くの内科系診療科医師にご参加頂き、大変賑やかな会となりました。まず始めに、内科学講座 内科学第四 田邊 一明教授より、新内科専門医制度とこの新制度における当院の研修プログラムである「オール島根内科専門医研修プログラム」についてご説明いただきました。まだスタートしたばかりの制度であり、指導を受ける側もする側も、双方ともに疑問や不安が多々ある中、具体的な研修プログラムについてご説明いただき、皆さん熱心に聞き入っている様子でした。その後、立食形式で軽食を摂りながら、学生さんや初期研修医の皆さんと、各内科系診療科の医師とで自由に話をする時間を設けました。学生さんや研修医の皆さんにとっては、普段の診療中や講義中には聞くことができないような話を聞けるよい機会になったことと思いますし、医師にとっても学生さんや研修医の方達がどのような思いで実習や研修に臨み、将来にどんな考えを持っているかを知ることができる良い機会になったのではないかと思います。本会を通じて、学生さん、研修医の皆さんに、島根大学・島根県内での研修や内科系診療科の取り組みに興味を持っていただけたようであれば幸いです。

内科系診療科では県内の内科系医師確保に向けた取り組みとして各科で協力し、来年度以降も年に一度このような会を開催する予定であります。今後ともご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



平成30年7月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成30年7月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年7月

ご報告

小児心臓CT検査における被ばく実測に向けた研究

放射線部 診療放射線技師 ただ けいじ
多田 佳司

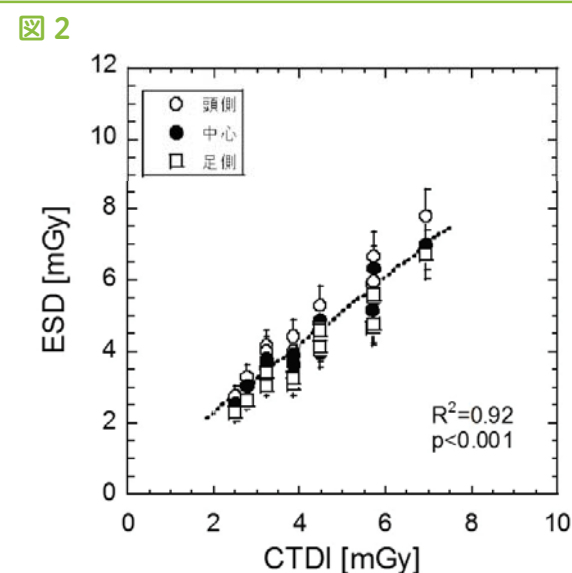
小児は放射線に対する感受性が成人の数倍高く被ばく管理が重要です。

我々は、小型OSL (optically stimulated luminescence) 線量計を用いて被ばく線量実測の研究を行いました(図1)。心臓CT検査時に撮影範囲内の皮膚表面線量(Entrance Surface Dose)を3箇所(頭側、中心、足側)で実測し、被ばくの指標として装置に表示されるCTDI(Computed Tomography Dose Index)との比較をしました。さらに、散乱X線による被ばく実測として撮影範囲外の高感受性臓器である水晶体、生殖腺で測定しました。その結果、撮影範囲内のESDとCTDIは良い相関関係にあり(図2)、撮影範囲外では相関関係にあると同時に線量自体は非常に小さな値であり、散乱X線による被ばくは非常に少ないことがわかりました(図3)。近年、世界的にも水晶体の被ばく線量限度が引き下げられる勧告、CTDIに代わるSSDE(Size Specific Dose Estimate)の導入など放射線被ばくに非常に敏感です。今までCT検査で被ばくを実測した報告はなく、今回は今後のシミュレーションによる臓器線量の推定などに非常に有用な研究ができました。

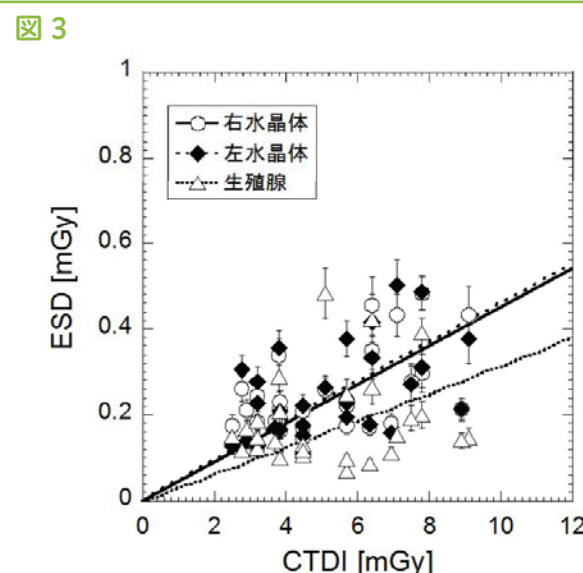
なお、本研究は平成29年度病院医学教育研究助成により実施されたものです。



図1



撮影範囲内の実測ESDとCTDIとの関係。



撮影範囲外の実測ESDとCTDIとの関係。



島大病院ニュース 2018年7月

ご報告

重度障害者における新しい入力装置の実用化

リハビリテーション部 作業療法士 もりわき しげと
森脇 繁登

みなさんは、視線でパソコンを操作する方法をご存知ですか？近年はテクノロジーの発展により、視線を使ってパソコン操作が行えるようになりました。このようなテクノロジーは、なんらかの要因で発声できない重度障がい者におけるQOLの向上に寄与する可能性があるかと期待されています。

リハビリテーション部では、神経難病を中心とした重度障がい者を対象に、視線を活用した専用機器を用いたコミュニケーション支援を行っています。今回我々は、視線入力の実用化に向けた研究として、操作方法の違いについて検証しました。結果は、視線だけを用いるのではなく、わずかな手の動き等の外部スイッチを併用することで、より早く専用機器に慣れることができ、伝えるための入力文字数も多くなることがわかりました。さらに、3軸加速度計&ジャイロメーター(Corpus, Inter Reha)で操作中の頭部を測定すると、頭部の動きが少なく、より多くの文字を入力することができていたため、操作には頭部固定性も重要であることがわかりました。

本研究により、支援する際の着眼点を明らかにすることができ、練習する上での有益な視点となる可能性が示唆されました。引き続き、実践的かつ支援の手助けとなるよう研究を進めて参ります。

なお、本研究は平成29年度病院医学教育研究助成により実施され、本学総合理工学部助教伊藤史人先生の協力を得て行いました。



視線入力装置

外部入力スイッチ



基質特異性拡張型
ベータラクタマーゼカルバペネマーゼ産生
腸内細菌科細菌

(ESBL) と (CPE) の調査について

検査部臨床検査技師 まにわ きょうへい
馬庭 恭平

基質特異性拡張型βラクタマーゼ(Extended Spectrum β-lactamase:ESBL)産生菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(Carbapenem-resistant Enterobacteriaceae:CRE)はどちらも薬剤耐性菌の一つであり、近年世界的に増加しています。当院の大腸菌におけるESBL産生率も年々増加する一方です。またCREは5類全数報告疾患に指定されていますが、なかでもカルバペネマーゼを産生するものはカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(Carbapenemase-producing Enterobacteriaceae:CPE)と言われプラスミドを介して伝搬し他の腸内細菌もカルバペネム耐性になるという特徴を持つため問題とされています。そこで、便検体を対象にESBL産生菌、CPEの保菌状況調査を行いました。ESBL産生の大腸菌についての遺伝子型、分子疫学解析の調査を行い当院における検出タイプを調べました。結果は調査期間内のESBL産生菌保有率は13.2%であり、全て大腸菌でした。CPEについては検出されませんでした。ESBL産生大腸菌についてのESBLの遺伝子型についてはCTX-M9 groupを持つものが92%でした(図)。分子疫学解析では18パターンに分類され、近年世界的に流行がみられる大腸菌ST131型が34.6%(26件中9件)でした(表)。この研究を行うことで、出雲圏で多いESBL産生菌の特徴や、CPEの保菌状況などを把握することができたと考えられます。ESBL産生菌の特徴や、CPEの状況を知っておくことは今後の耐性菌拡大を未然に防ぐことや、的確な感染防止対策を講じることにつながると考えられます。

なお、本研究は平成29年度病院医学教育研究助成により実施されたものです。

図:検出されたESBL遺伝子の頻度

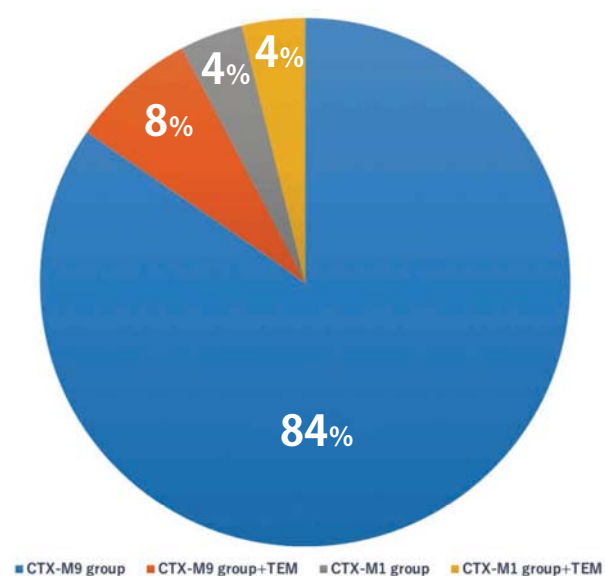


表:ESBL産生大腸菌の菌識別

POT 番号	件数	ESBL産生大腸菌で分離されるmultilocus sequence typing (MLST) 法の Sequence Type(ST)であるST131型は網かけ表記の9件でした。
49-58-83	4	
49-58-19	1	
49-56-83	1	
49-6-63	1	
49-46-35	1	
49-26-83	1	
20-56-211	4	
20-48-211	1	
20-8-163	1	
20-1-6	1	
17-0-3	2	
17-32-3	2	
17-49-88	1	
16-144-3	1	
18-0-21	1	
53-58-215	1	
53-58-83	1	
28-32-3	1	
計	26件	



しまね地域医療支援センターの取組み

●しまね地域医療支援センターとは?

一般社団法人しまね地域医療支援センターは、若手医師のキャリア形成を支援することを目的として島根大学、県医師会、県内32病院、県内市全町村と島根県が会員となって平成25年度に発足しました。島根の地域医療に貢献する志を持った若手医師や医学生が、医師としてのやりがいとしまねへの愛着を感じながらキャリアを積んでいけるよう支援しています。



島根で57名の医師が初期研修を始めました

●若手医師の県内定着

平成18年に始まった島根大学医学部医学科の地域枠推薦による入試制度や、平成14年度に始めた島根県医学生奨学金の拡充により、今では地域枠・奨学金貸与医師が毎年20名程度、これまでの累計では約200名の医師が誕生しています。昨年10月に実施した島根県勤務医師実態調査では、県内の病院等の常勤医師数は隠岐や県西部でも増加し、その効果が現れつつあります。

島根県勤務医師実態調査結果(各年10月1日)

島根県内の病院等の常勤医師数 (単位:人)								
	松江	雲南	出雲	大田	浜田	益田	隠岐	島根県
H28	339	37	501	52	91	67	25	1,112
H29	337	38	515	56	94	68	30	1,138
増減	▲ 2	1	14	4	3	1	5	26

●初期臨床研修医合同研修会

島根県医師会との共催により4月6・7日、県内で初期臨床研修を行う研修医(57名)が一堂に会して、松江市内において1泊2日の合同研修会を行いました。研修医の横のネットワーク構築や研修病院間の連携を図り、島根での研修が充実したものとなるよう支援しています。研修会では患者と医師の信頼関係構築などについて学び、医師としての使命感を醸成する機会となりました。初期臨床研修後も島根県内で活躍していただけるよう期待しています。



初期臨床研修医合同研修会の様子

問合せ先 **しまね地域医療支援センター** TEL: 0853-25-8327 / FAX: 0853-25-8361



医師の事務的業務は、私たちにお任せください!! ～病院で働く医師事務作業補助者～

平成28年4月の診療報酬改定で、医師事務作業補助体制加算が特定機能病院においても届出できるように拡大されました。

当院では、平成22年より医師事務作業補助者の養成に力を入れ、施設基準の届出はできない状況でありながら、病院医学教育研究助成金をいただき、毎年医師事務作業補助者養成研修を行ってきました。平成28年までに67名が受講して資格を取得し、現在21名が医師事務作業補助者として病院内で業務を行い、加算の30対1を算定しています。

医師事務作業補助者は、医師が行う業務のうち、事務的な業務をサポートする職種です。当院が行っている主な業務は、診断書や診療情報提供書など「医療文書の作成代行」、電子カルテなど「診療記録への代行入力」、「医療の質の向上に資する事務作業」として、カンファレンスの準備、がん登録や外科手術の症例登録(NCD)等、及び「行政への対応」があり、これは厚生労働省などに報告する診療データの整理を行っています。

当院が医師事務作業補助体制加算の算定を初めて7月で1年になりました。院内で取り決めた配置基準に則り、診療科等へ補助者を配置しています。まだまだ未熟であり、院内での知名度・必要度も決して高くありませんが、スキルを上げ、活躍の場を広げようと努力しています。

ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

